緑爽会会報　No. 191

2024年4月25日発行
日本山岳会　緑爽会
発行人　荒井正人

デザイン・制作　関塚貞亨

〜〜《報告》〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

3 月山行報告

三浦半島の山歩き（武山〜三浦富士）

荒井 正人

実施日：2024 年 3 月 7 日（木）　参加者：6 名（後掲写真参照）

「緑爽会のあゆみ」を見ると、1991 年 1 月 10 日に三浦富士とある。会報が未だ発行されていなかった頃のことで詳細は不明であるが、たまには海の見える山歩きも良いかと思って企画した。三浦海岸の河津桜も観賞しようと欲張ったが、ほとんど葉桜になっていて残念だった。

東京を縦断して川越から横関さんが参加してくれたが、皆さんには遠い所まで来ていただいて申し訳ない思いもあった。しかし、「時間距離」の視点からすれば奥多摩駅も結構遠く、スピードの出る京急では近いと錯覚してしまう。

集合は京急の横須賀中央駅。横須賀市には俗にベース（ＢＡＳＥ）と言われる米軍基地や自衛隊の駐屯地、防衛大学があるので、街中では米軍関係者や防大生をよく見かける。改札を出たデッキには、そんな街を象徴し、JAZZ を演奏するミュージシャンのモニュメントがいくつもある。やや不思議な思いである。

実は、企画した私は 2000 年から 2 年間、勤務地が久里浜だった。海なし県の埼玉県人が、中学生の時だったか、数少ない家族旅行で観音崎に来たことはあったが、よもや黒船来航の地で仕事をすることになるなんて思ってもみなかった。その時に三浦富士を知り、正月に富士山を眺めようと登って武山不動尊へ歩き、初詣としたことがあった。

その時下山した道を登る。バスを下車すると道案内の看板があって先々まで続いている。急な舗装道路を登るが、朝一番ということもあって、この登りがきつい。住宅街を越えると右が開けて海が見えた。辺りは既に照葉樹林帯の様相である。道端の花を見つけては富澤さんに名前を訪ねたりして行く。40 分ほどで平らで広い武山不動尊に着き、お参りして辺りを見回す。正しくは龍塚山不動院持経寺で、漁師や廻船の船頭たちは武山を海からのランドマークとしていたそうだ。豊漁や海上の安全に霊験あらたかということで、今でも 1 月 28 日の初不動には海の仕事に携わる方

目　次

ページ

《報告》

1.　3 月山行報告三浦半島の山歩き（武山〜三浦富士）　荒井 正人
　　三浦半島の山と河津桜　横関 邦子
4.　新緑の石砂山にギフチョウを見に行く　石塚 嘉一
5.　今後の会山行の活性化に向けて　荒井正人

《寄稿/投稿》

6.　山岳会設立の頃〈20 世紀初頭の東京〉❾ 電話の普及　南川 金一
7.　さがみこベリーガーデン 5 年目へ　山川 陽一

《予告など》

7.　総会・6 月山行・会員異動等
8.　編集後記・次号予告

が大勢訪れるとのことである。

脇から縦走路に入ると風が強い。東京湾が見え、下りはじめると正面には房総の双耳峰、富山が見えている。高い所で点滅するのは久里浜の火力発電所で、ああ、あの辺で仕事をしていたんだなあと懐かしく眺める。あまり花もない砲台山への途中で、石塚さんがチョウを発見。ムラサキシジミで、横関さんの腕に止まって離れない。砲台跡ではオオイヌノフグリとタンポポがあったが、西洋タンポポと日本のタンポポとの違いを富澤さんがレクチャー。

一旦砲台山から戻る形になって少し行くと、テーブルこそないが、海の見える展望地となっていて、ちょうどお昼ごはんに良いと休憩にする。ムラサキシジミは未だ腕に止まっていた。食事を済ませて歩いているうちにいつの間にか飛んで行ってしまったが。（この写真は当日撮影ではありません→）

三浦富士山頂からは晴れていれば富士山が眺められるのだが、生憎だった。小林さんが石碑などを解読すると、富士山登拝を重ねた先人が建立したもののようだった。眼下遠くにボーっとピンクに見えるのが河津桜の並木らしく、期待がもてた。

お地蔵さんがいくつかある急な階段を下ると、警察犬の訓練所に出た。谷筋にはあちこちを向いたソーラーパネルが設置されている。右は津久井浜駅に出るルートで途中の観光農園ではイチゴ狩りができるそうだ。左は京急長沢駅に出るルート。どちらでも良かったが、山頂の奥宮に対して、里宮が長沢駅の近くにあるようなので、左へ進む。歩き始めてすぐ、その左手にリスが現れ茂みに隠れて行った。この辺りの照葉樹林にはリスが多いと聞く。その先は舗装された農道の下りとなるが、左側は結構大きなソーラー発電設備となっていた。駅が近づくと、すぐそばに神社が見えるものの、どうやって入るのか分からない。でもこれが里宮だと判明した。ふた駅電車に乗って三浦海岸駅に降りると、駅前の河津桜が目に飛び込んで来たが、ちょっと遅く、淡い期待が消えてしまった。それでも折角だからと、植え始めて20年になるという並木道を歩き、満開の時期を想像した。

海の見える山も中々良いものだと感じたので、次は沼津アルプスや房総の山なども考えたいと思ったことであった。

三浦富士山頂で（左より）　石塚嘉一、鳥橋祥子、横関邦子、富澤克禮、荒井正人、小林敏博

3月山行　三浦半島の山と河津桜

横関 邦子

2月の山行は天候の都合で中止となり、2023年度最後の3月山行として三浦半島南部の山々へ行く計画となった。海と山の両方を見ながらの楽しい山行となった。

目的は三浦半島の山々(武山、砲台山、三浦富士)を登り、そして河津桜(三浦海岸駅から小松ヶ池公園)を見ること。

まずは、京浜急行の横須賀中央駅に集合。バスを「竹川」で降りると、静かな住宅街に関わらず、すぐにかなり急な登り道。朝から急登はまだ目が覚め切れていないのに。木々の緑の多い丘のような場所に続いていて展望台やキャンプ場がある。ゆっくりと武山の頂上(200m)まで歩くと武山不動尊の祀られた古い持経寺がある。天気が良ければ富士山の美しい姿が見られるとのこと。当日は、ちょっと雲がかかっていて見えなかったが、まだまだ桜のピンクがあちこちに残っていてきれいであった。

次の砲台山(204m)まで、左に海が広がり、足元には春の山野草が小さく、しずかに咲く登り道を歩いた。頂上からの海の景色は素晴らしく海岸と港に続く町々が絵葉書のように美しい。この頂上には昭和初期に海軍が砲台を造ったことから砲台山と呼ばれるようになったとのこと。鉢状の大きな丸い穴があり、砲台の中央には高角砲が据えられていた土台がある。平和な日本であることを感謝しながら、過去の歴史の中での日本の姿と、現在進行形で行われている世界各地での戦いでは、形は新しくなっているがこのような砲台が使われているのだろうか……。

この3つの山をつなぐ道からは、左右に海そして港、横須賀リサーチパーク(YRP)のビル群、京浜急行沿線の町々、桜並木、山々の緑、自衛隊の基地などさまざまな景色が見渡せる。海が見えるだけでいつもの景色と違うのに、三浦半島では両側に海が見渡せたりして、その雄大さが心地よい。

そして最後に三浦富士(183m)へ。途中、海を見渡せる展望台のベンチに座り昼食。すっかり青空になった広い空に、広々した海をバックにトンビがクルッと輪を描きながら飛んでいた。お弁当のおこぼれをねだってのことか、しばらく飛んでいたが、お弁当の終わるころにはいなくなっていた。

昼食を摂った眺めの良い地点でもチョウは離れない

三浦富士の山頂にある浅間神社には2つの石の祠が並んで祀られ、「浅間神社奥宮」と彫られた石碑もある。標高は低いが、山容が富士山に似ていることからこの名がつけられたそうで、天気の良い日には、山頂から相模湾～東京湾までの景色や伊豆大島、房総半島、そして富士山も望むことができるとのこと。富士山は見えなかったが、この山頂からの眺めも素晴らしい。

三浦富士を下山し、京急長沢駅から三浦海岸駅まで電車で移動。三浦海岸駅を降りると駅前に河津桜の木が何本かあるが、花はほぼ散ってしまい、ガクばかりが残っていた。時期が遅いこと、そ

して桜祭りは済んでいることは認識していたが、小さな望みを持って、小松ヶ池のそばまで歩いた。たくさんの河津桜の木が並木となってずっと向こうまで続いていたが、やはり今年の花は終わっていた。メジロなどたくさんの小鳥が鳴きながら枝から枝に飛びまわり可愛い姿や鳴き声を楽しませてくれたが、また来年の満開時期に来られたらと願いながら帰途についた。

新緑の石砂山にギフチョウを見に行く

石塚 嘉一

実施日：2024 年 4 月 16 日（火）　参加者：5 名（写真参照）

昨年からの横関さんの希望で、春の短い期間しか見られない絶滅危惧種のギフチョウを見に 3 月末に石砂山に行く計画を立てた。そのことを三浦富士の帰りにみんなに話したところ、5 人で行くことになった。しかし、3 月の異常な低温と雨のため、4 月に延期した。羽化して間もないギフチョウを見るのには 4 月第 1 週が理想的なのだが参加者の都合でこの日になった。

中央本線藤野駅からバスで赤沢へ。予約してあった地域のデマンドタクシーに乗り込んで登山口のある篠原の集落に着いた。山の斜面にも畑があって、里山らしい風景ですね、と誰かが言う。

登山口の桜はもうほとんど散ってしまっていた。昨年はここで桜の花にとまるギフチョウが見られたのだが、この日は、曇っていて、2 週間ほど遅いせいもあり、ギフチョウはいない。ヤマビルの警告板の近くで、持ってきた塩水を靴やソックス、ズボンの裾にスプレーして歩き始めたが、山道は乾燥していてヒルの心配は杞憂に終わった。

しばらくヒノキ林の急登を行く。富澤さんが、道脇のミミガタテンナンショウに似た草を見て、ユキモチソウではないかと言うので写真を撮る。30 分も登ると明るい広葉樹の尾根道になる。「自然林の尾根歩きはいいですね」と栗城さんが言った。樹間に山桜の花が見える。道脇のところどころにカントウカンアオイがあって保護の札が立ててあるが、ギフチョウの食草になるには十分な量ではない。

やがて、予報通り、尾根道に日が当たり始めた。気温が上がって日が出るとチョウは活動するので、一安心。あとは、ギフチョウが出てきてくれるかだ。その間にも、フデリンドウやセンボンヤリの花を見つけて写真を撮る。

石砂山頂にて（左から）栗城幸二、富澤克禮、小林敏博、横関邦子、石塚嘉一

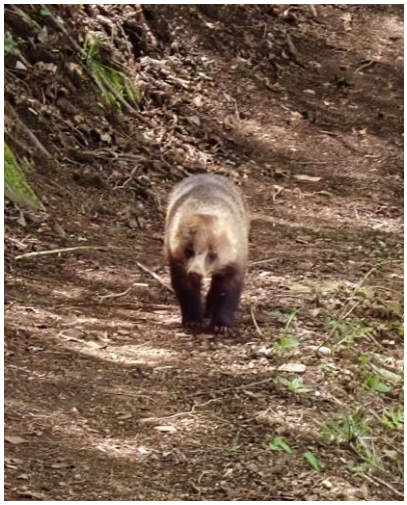
山頂まであと 300 メートルほどの地点で、新芽の出始めたブナとコナラの林から急登になる。階段状の道を喘ぐようにゆっくりと登り、予定より早く、1 時間で山頂に着いた。大きなレンズのついたカメラを構えてギフチョウを狙っている人が二人。3-4 頭が周りを飛ぶのだが、速くてとまらないから、スマホではなかなか撮れない。それでも、飛んでいるのでもとにかく見ることができて、

ほっとした。

羽化して間がないギフチョウが 10 頭以上もゆっくり飛び交っていた昨年と違って、たまにしか飛んでこないので、早めの昼食を食べたり、「あれは焼山かな」と山頂から見える山々の山座同定をしたりしながら、1 時間半もがんばったけれども、たまに地面に止まって翅を広げても、結局写真は撮れなかった。私がかろうじて 1 頭、地面に止まったところを撮ることができた。

「ギフチョウが見られてよかった」と小林さんと栗城さんが言ってくれた。残念そうな横関さんには、また来年も挑戦しましょうと慰めて、下山することにして、石砂山が初めての栗城さんと横関さんを入れて、全員で記念写真を撮った。

山頂直下の急な下り道を、横奥に咲き始めた山ツツジを見ながら菅井を目指して下った。緩やかで細いトラバースの道を行くと、その先に何かがうずくまっているのが見え、みんな立ち止まってよく見ると、のそっと立ち上がって、ゆっくり、「ひょたひょた」（荒井さんの表現）とこちらに向かって歩いてくる。考え事をしているみたいに、下を向いて歩いていてこちらに気がつかない。横関さんがおーいと声をかけると、こちらに気がついたのか、それでも慌てることなく、谷の方にゆっくり向きを変えて下りて行った。タヌキだと思ったのだが、撮った写真を見て、あとでアナグマらしいということになった。



途中、伏馬田への道を分け、伏馬田城（尾崎城）跡の分岐を過ぎて、山頂から 1 時間半ほどで菅井の集落に出た。ミツバツツジが花盛りだった。山頂を 30 分早く出たので、ゆっくり歩いたけど 30 分早く下山できた。菅井地区のデマンドタクシーに電話を入れたら、予約していた時間より早く迎えに来てくれて、やまなみ温泉バス停に。そこで藤野駅行のバスを待って帰途についた。

またこういうのをやりましょうということになり、和やかに新緑を楽しんだギフチョウ山行も終わった。　　（3 月山行も含め、報告の写真は全て石塚さん撮影・提供）

今後の会山行の活性化に向けて

この石砂山は、よく「呼びかけ山行」と呼ばれるものの試みとして実施されました。緑爽会の例会としての山行は、年に 6 回ほど実施されていますが、この数年は、近郊の奥多摩や中央線沿線などに集中している感があります。多くの会員が揃って参加できる山行を計画するのは中々難しいものです。もちろん、そうした計画立ては引き続き行っていきますが、今後の山行のあり方として、こうした「呼びかけ山行」あるいは「この指止まれ方式」とでも言いますか、そんな形で、各自の体力に合わせて参加できる山行を増やしていきたいと考えています。その旨、総会資料の事業計画にも記しました。今回のように、何か季節性やテーマ性のあるものが望ましいと思います。そういう中では遠方や高山など、泊りでの山行も可能かと思います。そして、例えばあの花が見たいとか、皆さんからアイデアを出していただくことを期待しています。（荒井正人）

～～《寄稿/投稿》～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

山岳会設立の頃〈20 世紀初頭の東京〉❾

電話の普及

南川 金一

1890（明治 23）年 12 月、東京と横浜に電話局が開設された。常盤橋の日銀本店の反対側、麹町区銭瓶町に電話交換本局（後に東京中央電話局と改称）があった。『新撰東京名所図会』に電話交換本局の紹介がある。「新しき赤煉瓦の建物と木造の一大建物とが相並んで空中に聳ゆるを見るならむ。又更に近寄りて其の周囲を眺むれば、幾百千條の銅線蜘蛛の囲の如くに懸りて右の建物内に垂下しあるを認むるならん。これ即ち吾人が顔容相接せずして知友と音声を通じ、自由に談話を試み得るの媒介を為すところの電話交換本局なり」。電話を引くには加入登記料 15 円、年間使用料 66 円だったというから、山岳会の年会費が 1 円だったことと比べてみても随分と高い。

明治 27 年の「横浜東京電話交換加入者名簿」に、横浜で「171 高野亀右衛門　旅亭及回漕業」とあるのは高野鷹蔵の実家である。東京では「城数馬事務所 681」とある。城数馬は弁護士であり、東京市議である。実業家か、よほどの資産家でもなければ電話を引ける時代ではなく、その名簿には東京市の幹部を含めて、いわゆる勤め人の家の電話番号は見当たらない。

明治 42 年、山岳会の事務所が横浜の高野方に移ったことを知らせる『山岳』の記事に、高野屋の電話番号が載っている。しかし、電話での山岳会についての問合せなどあっただろうか。そう考えていたところ、会報に面白い記事があった。No.489（1986 年３月）の「日本山岳会の発祥地」（広瀬潔）で、小島烏水から聞いた話として、「『山岳』編集打合せの件で、あまり頻繁に高野屋に電話をしたため、銀行の電話交換手から、『私用ですか、公用ですか』と叱られた」とある。高野屋の電話を、山岳会のために最も利用していたのは小島烏水だったようだ。

20 年ほど前だっただろうか、緑爽会による横浜の創期の山岳会に関連する場所を探訪する企画があったので、私も参加させてもらい、横浜正金銀行、高野屋跡地、ウェストンのいた山手教会などを訪ねたことがある。横浜正金銀行と高野屋はすぐ近くだったと知った。その時の印象から想像すると、直接会いに行くと話が長くなってしまうので、烏水は勤務中に銀行の電話で高野鷹蔵との話を済ませておいて、夜は自分の家での執筆に専念したいと考えていたのであろう。

明治 40 年発行の麹町区の地図を見ていて、飯田町停車場の所に◯印があるのに気が付いた。よく見ると、飯田町四丁目 10 番地の角と、靖国神社の入口の交番の隣にもあり、凡例に「〇印は自動電話」とある。場所からして公衆電話と思われるが、すでに公衆電話があったとは知らなかった。

自動電話は、明治 23 年の業務開始時に東京市内の郵便局と電話局内に電話所が開設され、一般市民のために公衆電話が設置された。自動電話と称されたが、交換手に通話接続を依頼して、必要に応じて５銭または 10 銭を投入した。通話料は市内１通話５分で 15 銭。高過ぎて利用者が伸びないとあって、まもなく５銭に値下げされた。自動電話とは、アメリカの街頭電話に表示されていた「オートマティックテレホン」が直訳されたものといわれている。

虎ノ門に山岳会の会室が開設されたのは 1929（昭和４）年 11 月だったが、電話が引かれたのは 1933（昭和８）年 10 月だった。1933（昭和８）年の会員名簿から、会員住所の電話番号が載るようになった。登載 772 人のうち電話番号の記載のある会員が 3 分の 1 ほどいる。しかし、東京では発起人の小島久太宅（阿佐ヶ谷）には入っているものの、同じく発起人の高野鷹蔵（阿佐ヶ谷）、高頭仁兵衛（中野）、武田久吉（富士見町）宅には入っていない。河田黙が養子に入った山川操宅（小石川）にも入っていない。木暮理太郎（市ヶ谷）や、中村清太郎、田部重治（いずれも阿佐ヶ谷）、冠松次郎（滝野川）といった創立間もない頃からの会員宅にも入っていない。

さがみこベリーガーデン５年目へ

山川 陽一

早いもので、さがみこベリーガーデンの建設に着手して５年目の春を迎えます。

緑爽会には今まで 3 回ご来園いただいています。最初に来ていただいたのはまだオープン前の 2021 年 10 月 21 日でした。建設に着手して丸２年が過ぎ、ようやく形になりつつあった農園の姿を見てもらいました。

2022 年６月に最初に植えた 550 本のブルーベリーが摘みとれる状態になり農園の半分を開放してプレオープンしたのですが、プレオープン直後の 21 日に２回目のご来園をいただき、摘んで、食べて、みんなでバーベキューを楽しんで、いいひと時を過ごしました。

そして昨年６月、農園全面を開放してグランドオープン。緑爽会には７月 20 日に３回目のご来園をいただきました。自然は怖いですね。オープンして間もなくの７月初旬、ヒヨドリの大群が襲来して熟したブルーベリーの実を一気に全部ついばみ尽くしてしまったのです。前の年はたいして問題なかったので甘く見ていました。それから１週間、農園をクローズしてスタッフ全員でネット張りに専念しました。ブルーベリーの熟期は 2～3 週間ですが、品種によって熟期が異なります。さがみこベリーガーデンでは熟期が異なる 36 種類 1100 本を６月から８月末までの間順次熟するよう配置してありますので、みなさんにお出でいただいた７月 20 日にはかろうじて間にい合いましたが、それでもお持ち帰りいただくには十分ではない状態で申し訳ないことをしました。何があるかわからないのが自然ですが、今年は対策バッチリです。

今年３月、生活クラブ生協と連携して、発電した環境価値付電気を全量生活クラブに売電する非 FIT コーポレート PPA と呼ばれる方式で新しいソーラーシェアリング設備の建設を行い、その下でワイン用ブドウの試験栽培も始まっています。

ワイン用ブドウの試験栽培を行う森の中の新発電所

今後の計画も含め、いろいろ見てもらうこと、聞いてもらうこと満載です。美しい自然の中で、皆で一緒に昼食も満喫できるよう準備します。是非今年もお越しください。お待ちしています。

＊ひとこと＊

「環境価値付電気」、「非 FIT コーポレート PPA」・・・何やら専門用語が並んでいますが、簡単にいうと発電した電気を電力固定価格買取制度（FIT）で東京電力に売電するのではなく、需要家（生活クラブ）と直接契約を結んで環境価値が高い純の自然エネルギーを供給して活用してもらう仕組です。さがみこベリーガーデンは、こんな時代を先取りした自然エネルギーの展示場です。

～～《予告など》～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

5 月 9 日総会・講演会（既報）: 当日運営は、お送りした資料の通りです。

・総会議案書に同封した返信ハガキを未だ書かれておられない会員は、投函をお願いいたします。

6 月山行　今熊山から金剛の滝、小峰公園へ

皆さんが歩いたことのあるコースだと思いますが、昨年雨で中止となったコースを再度企画しまし

た。今熊山から金剛の滝へ下り、さらにひと登りして雑木林の山野草を見ながら桜尾根を小峰公園へ下ります。

実施日：6 月 13 日（木）雨天中止

集　合：9 時 15 分　JR 武蔵五日市駅改札外

※ 9:30 発京王八王子駅行きのバス（2 番のりば）に乗車します。

※ （参考）立川駅発 8:26⇒拝島駅発 8:41（降車不要）⇒武蔵五日市駅着 9:00

行　程:武蔵五日市駅バス⇒今熊山登山口→今熊神社→今熊山→金剛の滝→小峰公園最高地点→小峰ビジターセンター→武蔵五日市駅（歩行時間約 4 時間）

持ち物：昼食、行動食、飲料水、敷き物、雨具、ストックなど

参加申込：6 月 9 日(日)までに下記担当者までお申し込みください。

小林敏博

石塚嘉一

７月暑気払い:「7 月 13 日（土）12 時より」と予定しています。場所は追ってお知らせいたします。

７月さがみこブルーベリーガーデン（SBG）探訪:（本文参照）今年から新たな設備、活動も開始している SBG を訪問し、施設説明後は、ブルーベリー摘み放題・食べ放題。そして BBQ などを楽しみます。日程は７月後半を予定しています。

会員異動

・新入会員

岡　義雄(5253)

岡田陽子(13463)

中原三佐代(15966)

・訃報：山口節子会員(4475)は 3 月 16 日、ご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

会費納入のご依頼：総会の席上でも受付いたしますが、ご欠席の会員は、別紙をお読みいただき、お手数ですが、お振込みをお願いいたします。

名簿の送付：新しい名簿を同封します。記載項目に変更や間違いがありましたら、荒井までお知らせ願います。

「緑爽会のしおり」の送付：2024 年度版のしおりを作成、同封しました。会員入会勧奨にご活用願います。

--- 編集後記 ----------

群馬県上野村の山開きに参加したが村内で山火事が起こり、近県の応援ヘリが3機消火剤散布していた。117回のフライトでやっと鎮火したそうです。アカヤシオは綺麗でした。もう山笑う季節です。（荒井正人）

今月は 2 回、カタクリを見に奥多摩・御前山を歩きました。以前に比べて山には下草がなくハシリドコロなどの毒草や枯れ木、裸地が目立ち、シカや温暖化の影響を目の当たりにしました。（小林敏博）

東京多摩支部のベテラン会員と有望な若手会員が入会された。先日、同支部の低山会の山行のときに、荒井代表が呼びかけた結果だが、かねて会報や活動に関心があったそうで、嬉しいことです。（石塚嘉一）

次号予告＜6月24日発行の主な内容＞　皆様からの投稿をお待ちしています

報告（総会、講演会、6月山行）、南川さんの連載⑩など